

おおふな

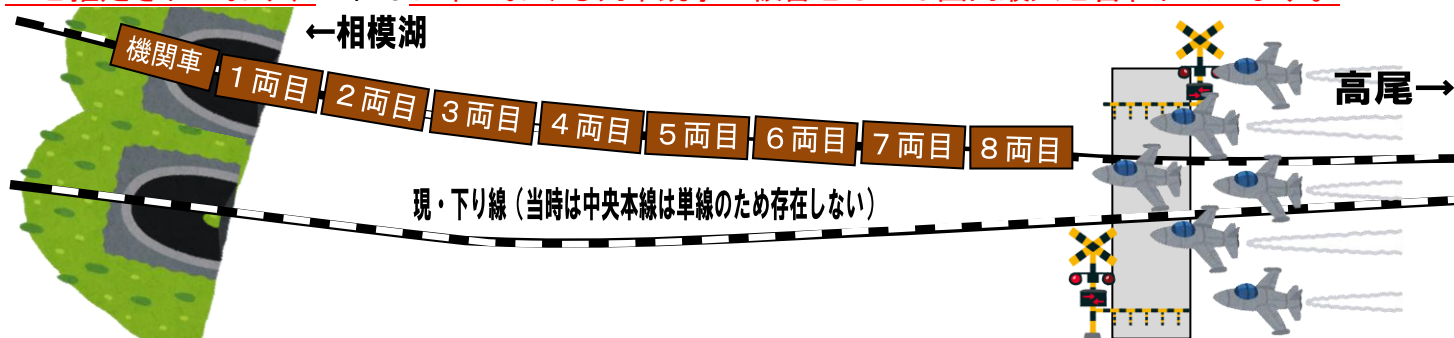
JR東労組 大船支部

横浜地本・八王子地本合同 情報づくり研修に参加しました！！①

11月17日に、横浜地本・八王子地本合同「情報づくり研修」が開催され、職場の仲間と共に参加しました。今回は「中央本線湯の花トンネル419列車銃撃空襲」「高尾駅ホーム銃撃痕」の現地踏査と、八王子地本事務所において八王子地本の仲間と共に意見交換を行いました。

◆湯の花トンネル419列車銃撃空襲とは

1945年8月5日、中央本線419列車（新宿発長野行）は浅川駅（現・高尾駅）を発車し、湯の花トンネルに近づいた時、追いかけるように飛来したP-51ムスタング（プロペラ戦闘機）によって機銃掃射を受けました。列車は架線が切断されたことと、急ブレーキをかけたことでトンネルの中に機関車と客車1両半が入って急停車、トンネル外の車両は繰り返し銃撃されました。この銃撃空襲を受ける3日前の8月2日に、八王子市内はB29による空襲を受け、市街地の8割が消失、中央本線も不通になっていました。419列車は復旧後初の長野方面に向かう中距離列車であったことと、疎開先や自宅に向かう人々で浅川駅を出発するころには超満員の状態でした。この銃撃空襲では40名が即死、結果として52名が亡くなり、133名が負傷しました。收容先で亡くなられた方や関連死を含めると、死者は60名以上と推定されており、これは日本における列車銃撃の被害としては国内最大とされています。



現場近くには地元の方々が中心となり建立された慰霊碑があります。慰霊碑には亡くなられた方のお名前と年齢が刻まれており、若い世代が多く、5歳の子どものお名前もありました。



踏切から撮影した湯の花トンネル
(安全を確認した上で撮影しています)

②に続きます！！